

(3) 第6回CASPワークショップの参加後のEBM関連用語の知識

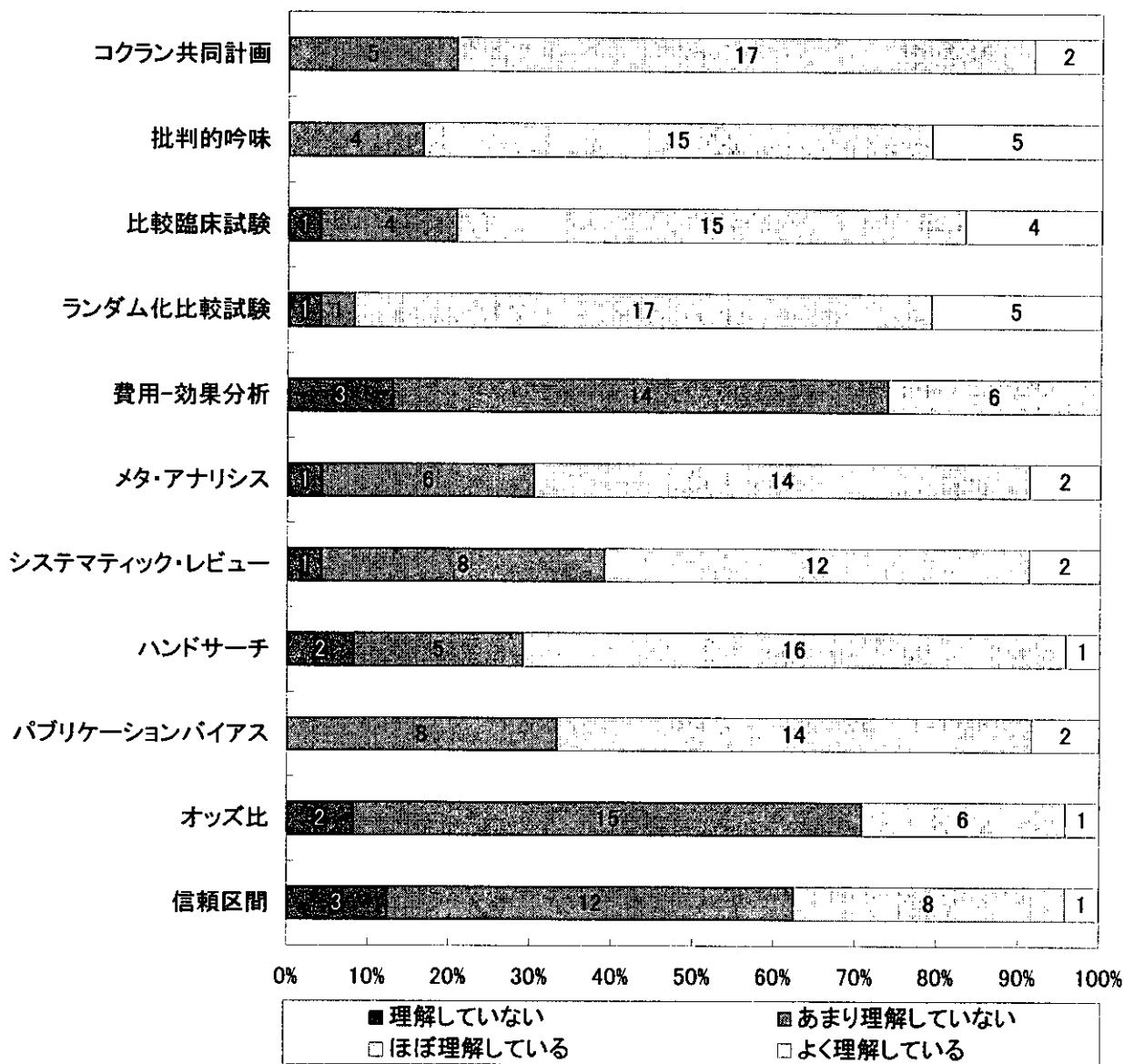


図1-8 ワークショップ参加後のEBM関連用語の理解

資料 2

第 3 回 EBM リサーチライブラリアン・ワークショップ関連資料

(2000 年 9 月 12 日(火)、13 日(水)、大阪開催)

目次	page
1. 第 3 回 EBM リサーチライブラリアン・ワークショップ プログラム	20
2. 第 3 回 EBM リサーチライブラリアン・ワークショップ 参加者名簿	21
3. 第 3 回 EBM リサーチライブラリアン・ワークショップ 要旨	23
4. アンケート解析結果	25
(1) 参加者の属性	25
(2) 各セッションへの評価	29
(3) 全体への評価	37
5. 小テスト結果	48

1. 第3回 EBM リサーチライブラリアン・ワークショッププログラム

2000年9月13日(火) 13:00 ~ 17:15

- 13:00 ~ 13:15 開会あいさつ・プログラムの説明・事務局からの案内
岩崎 理香 (国際医療福祉総合研究所 研究主幹)
- 13:15 ~ 14:30 **D-1**: EBMの基礎と現場からの情報ニーズ
名郷 直樹 (作手村診療所 医師)
- 14:30 ~ 14:45 - coffee break -
- 14:45 ~ 16:00 **D-2**: 医学研究デザインの基礎
金子 善博 (東京医科歯科大学 医師)
- 16:00 ~ 17:15 **I-1**: The Cochrane Libraryの効果的使い方について
福岡 敏雄 (名古屋大学 医師)

2000年9月13日(水) 9:25 ~ 15:50

- 9:25 ~ 10:00 **I-2**: PubMedの効果的使い方について
田部井 香織 (東京慈恵医科大学医学情報センター)
- 10:00 ~ 10:35 **A-1**: 医薬系国内三大データベースの使い方
宇山 久美子 (国際医学情報センター)
- 10:35 ~ 11:05 **A-2**: JAPICDOCの概要
河野 光男 (国際医学情報センター)
- 11:05 ~ 11:35 **A-3**: JMEDICINEの概要
梶 正憲 (科学技術振興事業団)
田村 奈巳 (科学技術振興事業団)
- 11:35 ~ 12:00 **A-4**: 医中誌基本DBの概要
三沢 一成 (医学中央雑誌刊行会)
- 12:00 ~ 13:00 昼食 (12:20 ~ 12:40 JMEDICINE デモ
12:40 ~ 13:00 医中誌基本DB デモ)
- 13:00 ~ 15:25 **A-5**: ランダム化比較試験論文のさがし方—ハンドサーチの実際—
廣瀬 美智代 (JANCOG)
- 15:25 ~ 15:50 まとめ・質疑応答
津谷 喜一郎 (東京医科歯科大学 助教授)

D: Design (デザインコア) I: Information (情報コア) A: Action (アクションコア)

2. 第3回 EBM リサーチライブラリアン・ワークショップ参加者名簿
トレイニー

No.	氏名	勤務先	部署名
1	青木 裕子	財団法人 天理よろづ相談所病院	医学図書館
2	安部 弘三	財団法人 国際医学情報センター	
3	飯田 育子	浜松赤十字病院図書室	
4	伊藤 淑子	大阪歯科大学図書館	
5	上田 大輔	九州大学生体防御医学研究所図書室	
6	大前 富美	大阪府立看護大学附属図書館	
7	梶 とみ子	聖路加看護大学図書館	
8	杏井 純子	奈良県立医科大学付属図書館	
9	小坂 麻衣子	北海道大学大学院医学研究科	医学部図書館
10	佐久間 せつ子	医学中央雑誌刊行会	
11	里川 得美子	国立療養所三重病院図書室	
12	新海 豊	大日本製薬株式会社	研究管理部
13	杉本 節子	大阪市立大学学術情報総合センター	医学分館
14	諏訪 敏幸	大阪大学附属図書館	生命科学分館 参考調査係
15	坪内 政義	愛知医科大学医学情報センター	図書館
16	中嶋 由美子	聖隷学園浜松衛生短期大学図書館	
17	中野 敦子	大塚製薬株式会社	情報室
18	中村 規子	住友製薬株式会社	経営情報室
19	中村 雅子	大阪府立母子保健総合医療センター	図書館
20	西野 順子	大日本製薬株式会社	研究管理部
21	西村 有未	参天製薬株式会社	医薬情報グループ
22	浜田 雅美	医学中央雑誌刊行会	
23	兵井 伸行	国立公衆衛生院	保健統計人口学部
24	平田 直紀	医学中央雑誌刊行会	
25	松下 茂	株式会社 サンメディア	営業推進部
26	森川 治美	松阪中央総合病院図書館	
27	山崎 賢二	鳥取大学附属図書館	医学部分館医学情報係
28	山室 眞知子	京都南病院図書館	
29	湯浅 智之	株式会社 サンメディア	営業推進部
30	吉岡 陽子	財団法人 田附興風会医学研究図書室	
31	吉富 啓子	近畿大学医学部図書館	

トレーナー

No.	氏名	所属
1	宇山 久美子	国際医学情報センター
2	河野 光男	財団法人 日本医薬情報センター
3	梶 正憲	科学技術振興事業団
4	金子 善博	東京医科歯科大学
5	北澤 京子	日経 BP 社
6	田部井 香織	東京慈恵会医科大学
7	田村 奈巳	科学技術振興事業団
8	津谷 喜一郎	東京医科歯科大学
9	名郷 直樹	作手村診療所
10	廣瀬 美智代	JANCOC
11	福岡 敏雄	名古屋大学
12	三沢 一成	医学中央雑誌刊行会

他に準備のための研究協力者・スタッフ 6 人を要した。

3. 第3回 EBM リサーチライブラリアン・ワークショップ要旨

2000年9月13日(火)

D-1: EBM の基礎と現場からの情報ニーズ

このセッションでは、高コレステロールの女性患者を例に取り挙げ、EBM の基礎と医療現場での応用について述べられた。前半は、①問題の定式化、②情報収集、③内部妥当性の吟味(情報そのものの吟味)、④外部妥当性の吟味(患者にとって役に立つか)、⑤①～④の反省、という EBM のプロセスが解説された。後半では特に、目の前の患者に対して EBM をどのように実践するかに焦点をあてて、高コレステロール患者に対する具体的な検討方法が解説された後、実際の医療現場で行なわれている取り組みが紹介された。

D-2: 医学研究デザインの基礎

このセッションでは、医学論文の信頼性の判断基準について解説された。まず、最も信頼できる研究手法として、RCT についての説明がなされた。RCT の計画を立てる際に考慮すべきこととして、①論理性、②倫理性、③実現可能性を満たしている必要があることを述べ、交絡バイアスを抑制するための対照の設定、選択バイアスを抑制するためのランダム化、観察バイアス抑制のための盲検化について解説された。また、当初の割付を試験の最終まで遵守する ITT 解析について説明された。次に、統計学的基礎について解説された。この中で、信頼区間の考え方が主に述べられた。次に、臨床研究デザインの種類について解説された。分類法は、観察的か実験的か、記述的か分析的か、横断的か縦断的かということである。また、目的に応じた研究デザインの選択について述べられた。最後に、メタアナリシス、決定分析、経済分析といった、情報を定量的にまとめる方法の簡単な解説の後、エビデンスの強さすなわち内部妥当性の高さに関する議論で締めくくった。

I-1: The Cochrane Library の効果的使い方について

このセッションの目的は、①コクランライブラリの中にどのようなデータベースがあるか②そのデータベースの目的と利用法③コクランの体系的なレビューを読むポイント④他の体系的データベースを読むポイント、である。これにより、より簡単に体系的レビューが探せるようになり、より簡単に体系的レビューの大意がつかめるようになる、という目標を置き、話が進行された。まず、①、②を簡単に解説した後、「HIV の妊婦に対して AZT を飲ませることで子供への感染率を減らすことができるか」というような具体的事例をいくつか取り上げ、③の実践例が述べられた。最後に④の簡単な解説で締めくくられた。

2000年9月13日(水)

I-2: PubMed の効果的使い方について

このセッションでは、まず PubMed の概要が述べられた後、インターネットを実際に用いた検索実演にて検索の基本構造が紹介された。PubMed は MEDLINE に収載されている文献を検索するインターフェイスであるが、MEDLINE のキーワードである MeSH により検索実施者の意図を反映した検索ができるという点が述べられた後、具体的な検索方法がいくつか紹介された。また、Clinical Queries 画面では、研究の観点と検索の精度を絞った検索をすることができ、目的に応じた検索が出来るようになっていることが述べられ、このような検索手法の開発を試みた Haynes の研究を簡単に解説し

てこのセッションを終えた。

A-1: 医薬系国内三大データベースの使い方

このセッションでは医薬系国内三大データベースとして、JMEDICINE、医中誌、JAPICDOC の 3 つを取り上げ、その概要、問題点、検索例が示された。冒頭では比較表を用いて、収録対象資料やシソーラスなどの三大データベースの主な特徴が紹介された。次に日本語のデータベースに固有の問題として、単語間にスペースがないことによる検索の難しさが指摘され、実際に検索をする際にはその目的に応じた検索式を立てる必要があることが述べられた。最後に、よりエビデンスの高い文献が効率よく検索できるデータベースを構築するためには、リサーチライブラリアンもデータベースの作成側に意見を述べていく必要があることが述べられて、このセッションを終えた。

A-2: JAPICDOC の概要

このセッションではまず、収載文献など JAPICDOC の概要が紹介された後、キーワードの構成が詳細に述べられた。また、JAPICDOC は医薬品に特化したデータベースということで、医薬品の薬効や副作用が中心の抄録となっていることが述べられた。最後に JAPIC が提供しているデータベースの一覧が紹介された。

A-3: JMEDICINE の概要

このセッションは、JMEDICINE ファイルの概要を述べた前半部分と、JST の新規サービスについて述べた後半部分に分かれた。前半部分では、JMEDICINE ファイルの構成や検索項目、検索ツールの解説がなされた後、臨床試験関連の統制語に関する詳細が解説された。後半部分では、今後提供されることが予定されている、予稿集データベースの説明がなされた。

A-4: 医中誌基本 DB の概要

このセッションでは、医中誌基本データベースの概要として、収録分野、データ更新頻度、収録件数などの説明がなされた後、2000 年 4 月より開始されたインターネットサービス「医中誌 WEB」の概要が説明された。CD-ROM 版から向上した機能としては、同義語ファイルの利用による統制語への案内機能が紹介された。

A-5: ランダム化比較試験論文のさがし方—ハンドサーチの実際—

このセッションの前半では、ハンドサーチに関して、その必要性、対象、方法が解説された。ハンドサーチはコクラン共同計画のなかで推進されている、RCT 論文をもれなく確認するための手法であり、ヘルスケア雑誌全般を対象とすることが述べられた後、具体的なハンドサーチの方法が述べられた。後半では、ハンドサーチの演習が行なわれた。ここでは、RCT、CCT、その他のいずれかに分類する 15 題の演習用例題を用いた演習の後、各自 1 冊の医学雑誌を用いて同様の分類をする演習が行なわれた。

4. アンケート解析結果

(1) 参加者の属性

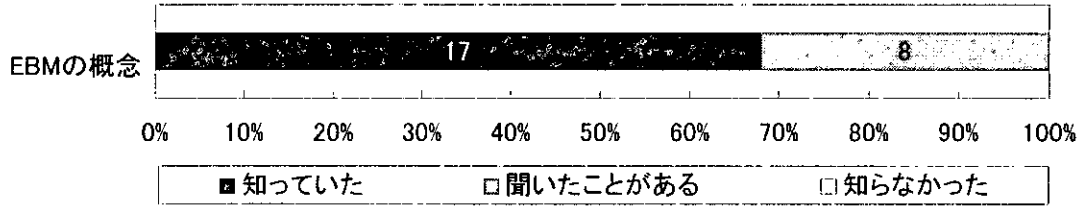


図2-1 EBM概念の知識

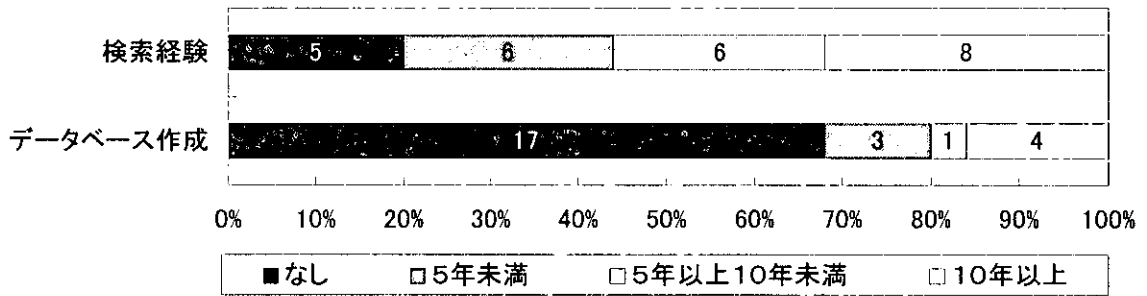


図2-2 検索及びデータベース作成の経験年数

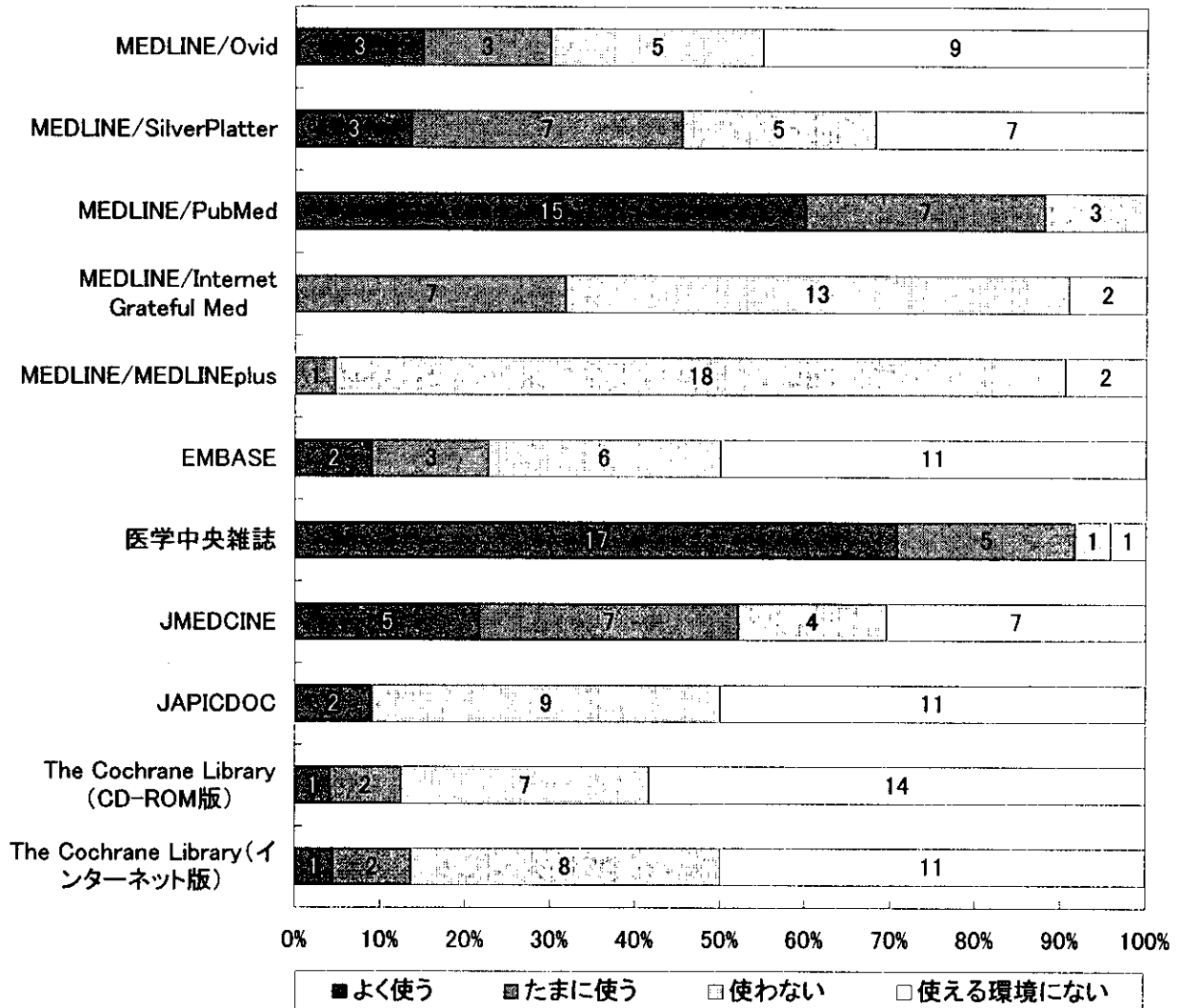


図2-3 データベース利用状況

表2-1 その他利用するデータベース

BIOSIS	Peyd
BIOSIS Preview	STN
CA	The Lancet
CINAHL	Toxline
Current Contents	Uncover
Derwent Drug File	Web of Sci
EBMR(ovid)	雑誌記事索引
ERIC	日外アソシエーツ
IMS	日外アソシエーツ経由Bookplus
NACSIS-CAT	

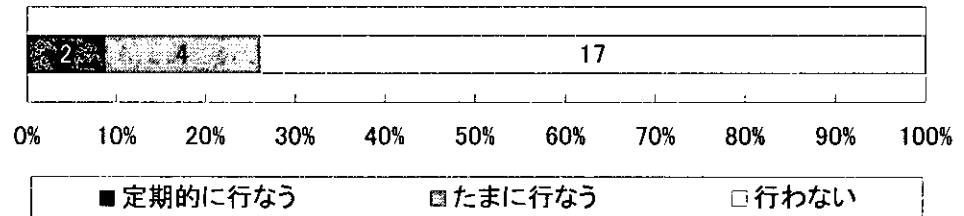


図2-4 受け入れ雑誌のスクリーニングの経験

表2-2 図書館利用者からのデータベース関連の要望

1. 医学中央雑誌の1987年以前のデータ。
2. 医中誌のアクセスをよくして欲しい。
3. JMEDCZNEのインターネット版では、医中誌が提供していたデータのほとんどもカバーして欲しい。
4. 検索指導。
5. DBからフルテキストへのアクセスを可能にすること。
6. コ・メディカルユーザ、特に心理分野からの要望として、社会学・福祉分野のデータベース、もしくはPubMedと医中からのコ・メディカル分野の抽出方法。
7. エンドユーザ教育を行なって欲しい。
8. 基本的な利用方法の質問を受けることが多い。

(2) 各セッションへの評価

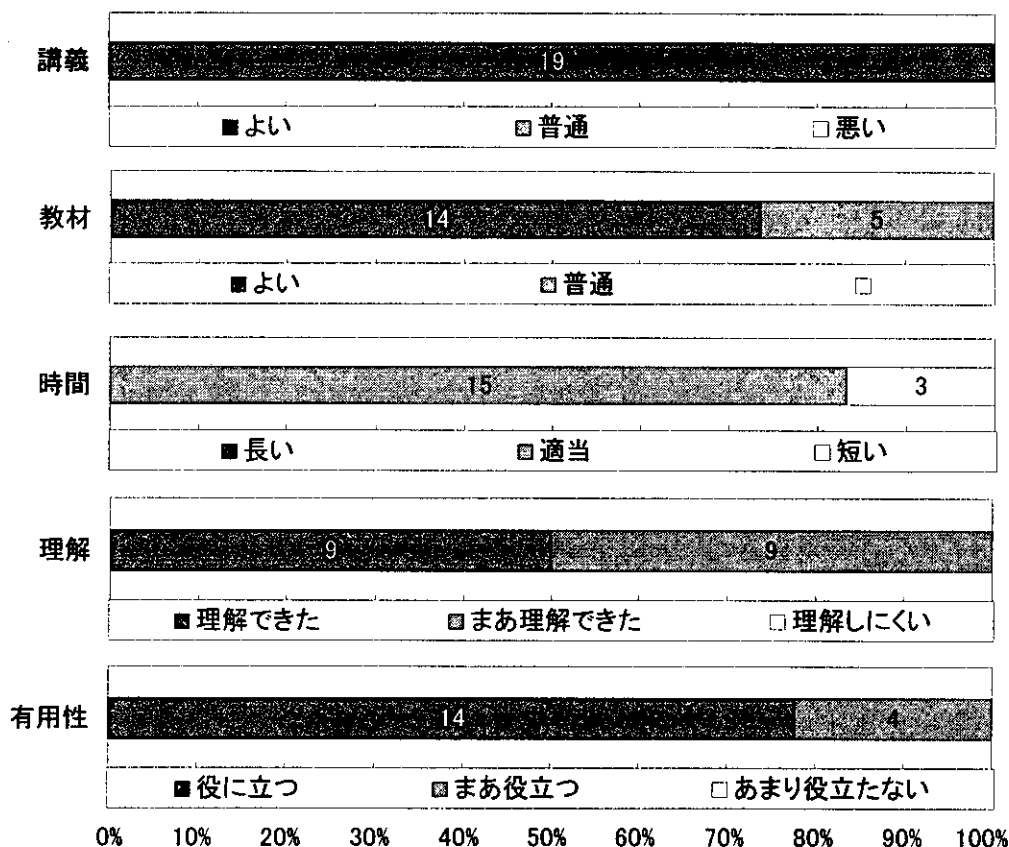


図2-5 EBMの基礎と現場からのニーズ

表2-3 EBMの基礎と現場からの情報ニーズ

1. 漠然としか解っていなかったEBMの概念が明確となった。
2. 患者からの視点という図書館員の関係の薄い部分の話を聞いたことがためになった。
3. 先生のお話を聞くのは、2回目かと思います。前回と同じ、いつでも忘れないお話でした。
4. 遅刻しました。不明です。残念
5. 現場におけるEBMの実践について、事例をあげての説明でわかりやすかった。
6. 診療の現場でEBMが活かされていることが実際にわかった点がよかった。
7. 「楽に必要な情報が入手できるよう司書が教えてほしい」との意見。
8. 診療の現場でのEBMの取り組みについては、非常に興味深かったです。
9. 今まで持っていたEBM観が一面的だったことが分かり、「目からウロコ・・・」という感じ。
10. EBMが臨床の現場でどのように利用(必要と)されるのかわかった。

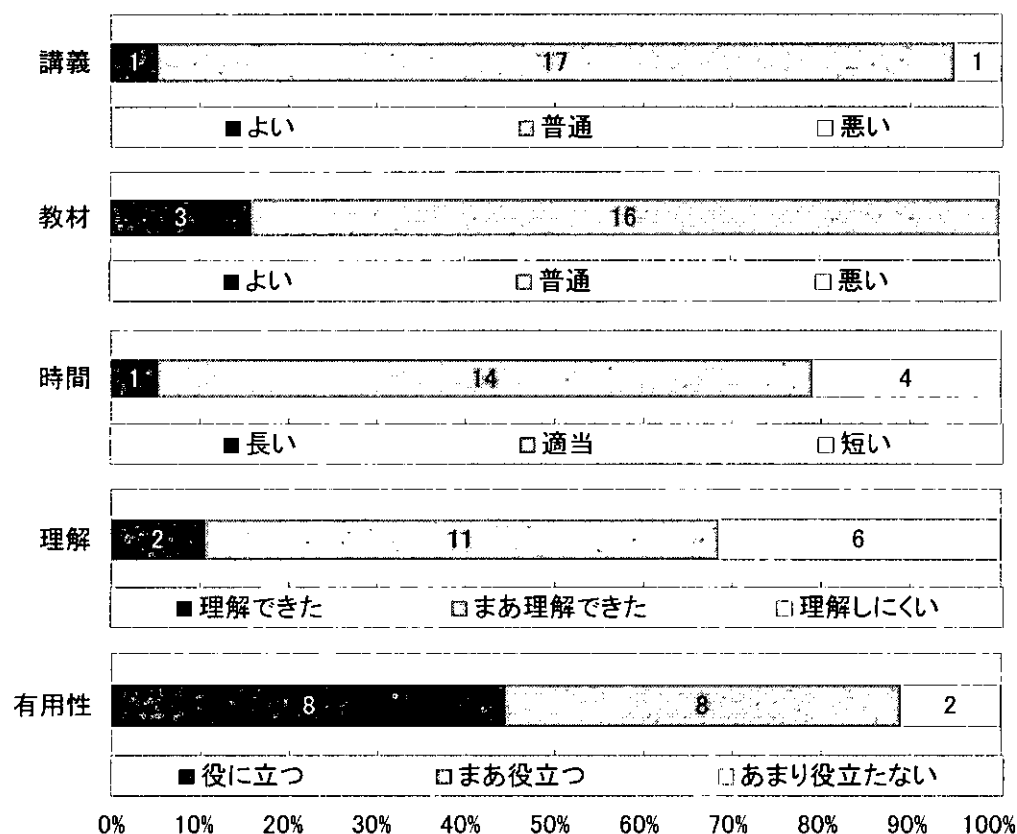


図2-6 医学研究デザインの基礎

表2-4 医学研究デザインの基礎

1. EBMの基本用語の説明であったと思うが、内容説明が不十分でそのつながりが理解できなかった。
2. 統計や専門用語等が多く、初めて聞く内容も多かったため少しわかりにくかった。
3. 具体的事例(論文)があれば理解しやすかった。
4. ITT解析、有意水準など、用語の意味が分からなかったのが難しかったです。
5. 用語の説明もあれば、もっと分かりやすかったのでは。
6. もう一度講義を聞きたい。今回の講義をもとにして受講すればよく理解できると思う。理解できた範囲では役立つ。
7. 図書館がふだん意識しない事柄です。(不勉強?) 今後活動を支えるために理解を深める要ありと思いました。
8. 少し内容や説明の重複、繰り返しが多かったような気がする。
9. P値と検定のところが分かりにくかった。難しい。
10. プラセボ対照で、Activeの中にもプラセボ効果を含むこと。なるほどとよく分かった。
11. もう少し基本的な用語、概念を説明していただけると理解しやすかった。
12. 理解しにくかった。
13. 研究論文の成り立ちがわかった。

表2-5 情報流通とライブラリアン

1. 聞けなくて残念でした。
2. 病院内誌の編集に役立たせなくてはならないと思う。
3. 資料を拝見して、是非お話を伺いたかったと思いました。

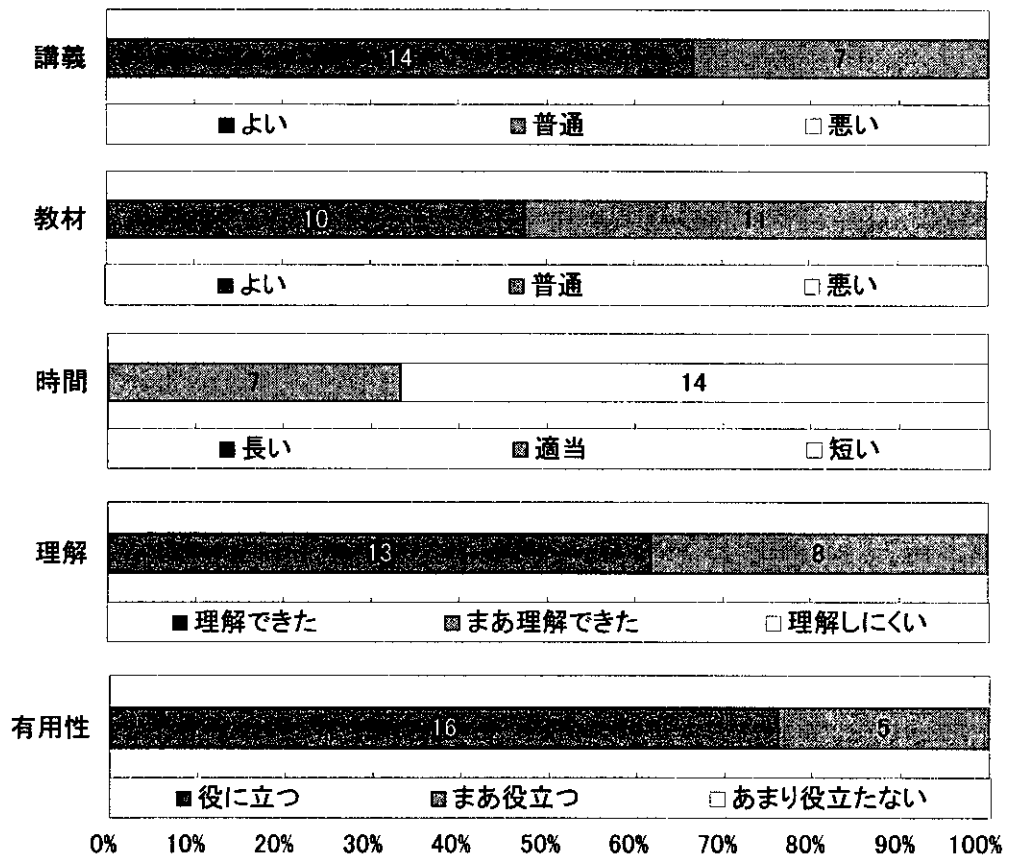


図2-7 PubMedの効果的使い方

表2-6 PubMed効果的使い方について

1. Related Article 及び Clinical Queriesは知っていたが、よく分かっていなかった。今後利用できそうである。
2. 分かりやすく役に立ったが、例題集等もあればもっとよかった。
3. 実例をもう少し入れてほしかったです。
4. 残念ながらほとんど既知の情報。ただ、まとめ方は優れていて参考になった。
5. Clinical Queriesの解説が有益でした。
6. 頻繁にPubMedを利用していることを前提に話が進んでいったので、利用者にフリーで利用出来ることを伝えるために、2, 3度使用しただけの私には少し進度が速かったです。
7. 実際にデモを見せてもらったのでわかりやすかった。PubMedの詳細な機能を今まで教えてもらったことがなかったので有用な点がかなりありました。
8. クリニカルクエリーが92年のヘインズの研究に基づくものであるということが参考になった。
9. Medlineの構造を知った上でどういう切り口でいくか戦略を立てなくてはならない。
10. 個人的にはEBMから離れて、PubMedの機能紹介などをもっと時間を取って行っていただければうれしかった。
11. 今日から実践することの出来る内容で、それも分かりやすく講義していただきよかったです。
12. 片寄った使い方しかしていなかったなので、PubMedの使い方を多角的に使えるようになりたいと思った。
13. 日常最もよく使うPubMedの有効性を改めて認識した。

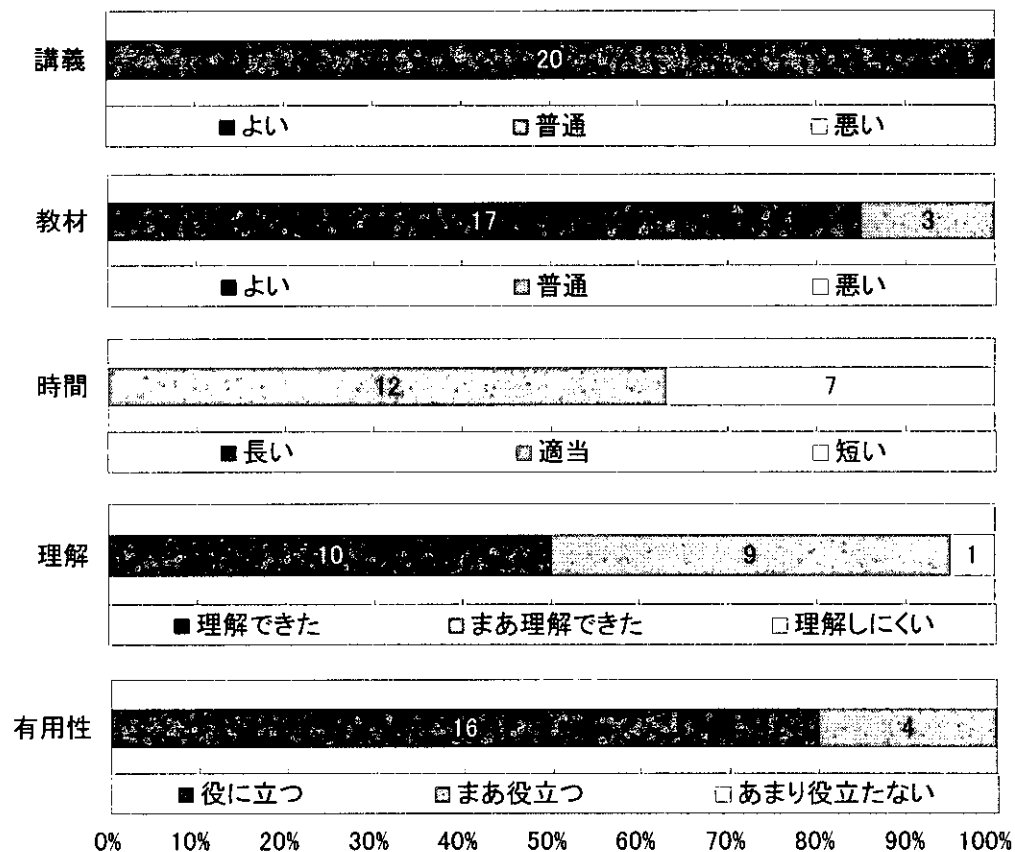


図2-8 The Cochrane Libraryの効果的使い方

表2-7 The Cochrane Library 効果的使い方について

1. Cochrane Libraryの利用法がよく理解できた。
2. 読み取りのポイント、図の説明等非常にわかりやすかった。
3. とても面白かった。Caspの時にも講義頂き、眠たい目も覚めるような時間でした。Caspファンの一人です。
4. Blobbogramの解説が特に役立ちました。
5. 実際にデモを見せてもらったので分かりやすかった。
6. コクランライブラリーの概要や有用性が分かった。
7. 不明なところばかり残った。もう一度講義を聴きたい。
8. 当方の理解不足というのが大きな要因なのですが、少し難しかったです。正直なところ回数を重ねてお話を聞けたらと思いました。
9. 言葉でしか知らなかったものが身近かに感じられました。

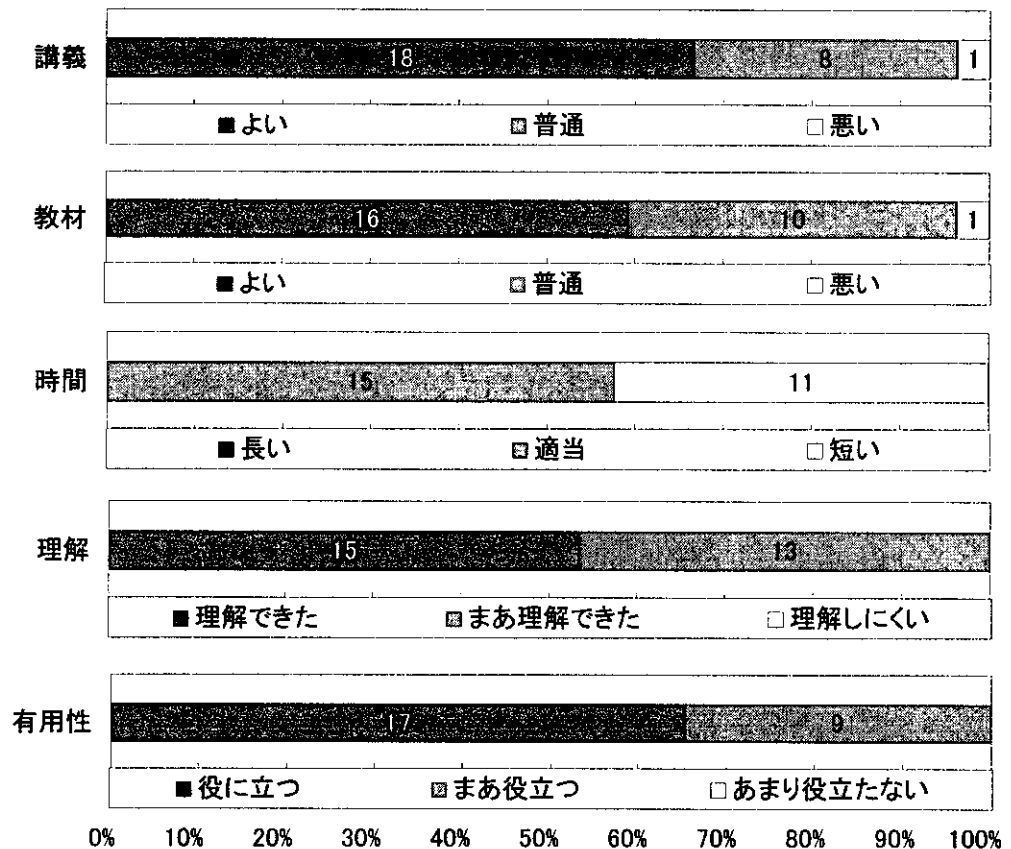


図2-9 医薬系国内三大データベースの使い方

表2-8 医薬系国内三大データベースの使い方

1. 比較されているところが良かったが、時間が短かったので早口で聞き取りにくかった。
2. データベースの落とし穴等全く考えたことも無かったのでためになった。
3. より具体的であり、理解もしやすいし今後活かします
4. 資料の文字が小さすぎて見にくかったです。
5. 資料のどこを話されているのか分からない。発音不明瞭な割に早口。
6. 講義はほとんど既知の情報だったが、資料は有益。
7. 講義がとてもよかったのが印象的。これまで気づかない点があった。
8. おなじみのDBの復習になりました。RCT関連KWの付与のされ方が有益。ただし、KW式の立て方を実際に見たかったです。
9. スライドで見えにくい教材をプリントしていただいたが、そのプリントも見にくく文字が消えていた。
10. 検索の落とし穴
11. 短時間で三大DBを完全に各方面から比較されており、とても分かりやすかった。
12. 日本語データベースの検索の難しさがよく報告されていた。
13. どうして雑素の話にふれないのでしょうか？コ・メディカルのコースはここにしかないのに。
14. もう少しゆっくり行っていただきたかったです。早口で聞き取りにくいところがありました。
15. EBMに関する検索における問題点がよく整理されており、DBの作成側としても貴重な意見であった。
16. 見落としやすいキーワードの拾い忘れについて改めて認識した。

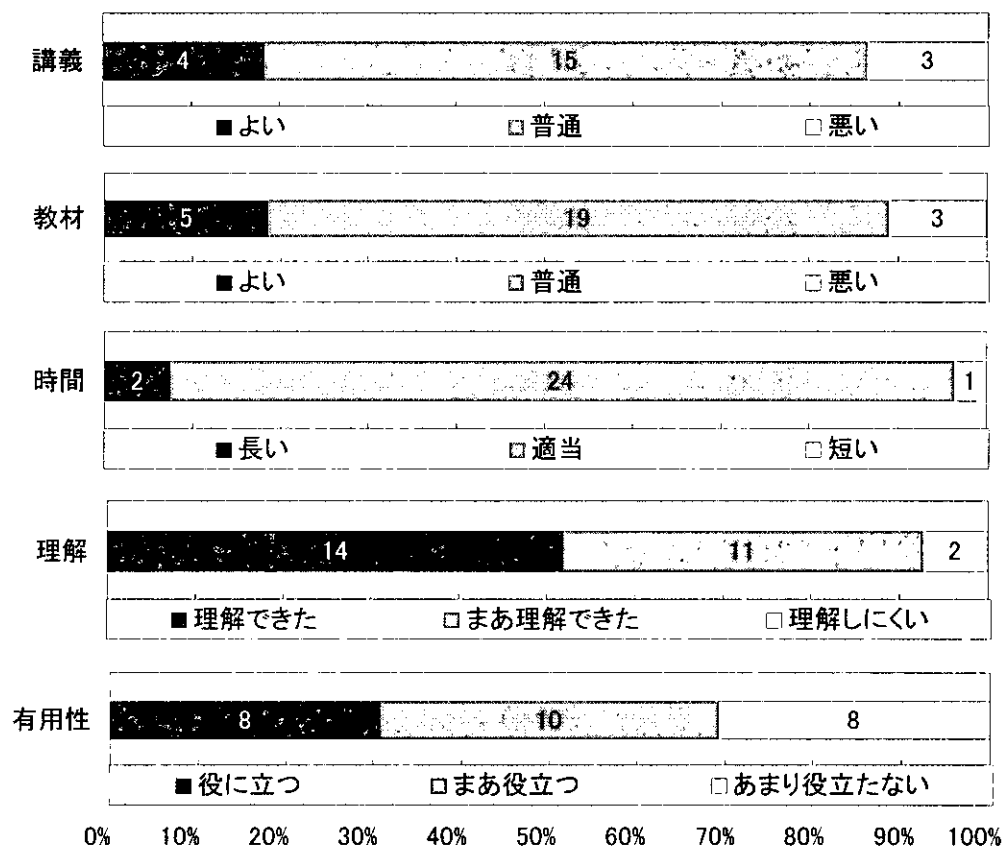


図2-10 JAPICDOCの概要

表2-9 JAPICDOCの概要

1. こんなデータベースもあるのかということ参考になった。
2. 当館ではあまり必要ないが、病院の図書室等にとってはよいデータベースだと思う。
3. JOISで使えることを知らなかった。是非今後は使用したい。
4. ほとんど使わないので参考になりました。
5. 医薬品について、深く研究したりする利用者が少ないと思われることから、当館においてすぐに役立つとは思われなかったが、医薬品という観点で収集、加工されたデータは、他の2つのDBと比較しても精度の高いもののように感じられた。
6. 参加者はほとんど未使用ということでしたので全体としては問題ないと思いますが、単なる紹介に終わったので、既に利用している者には不向きでした。
7. 実際の検索例、どのような検索が行われているのかが知りたかった。
8. 公開されないデータベースに何の意味があるのか不明。
9. JAPIC-Qの話がなかった。
10. スライドだけでなく、デモを見せてほしかった。
11. 日頃、親しみの無いDBではあるが、有効な検索が行える構成であることが分かった。

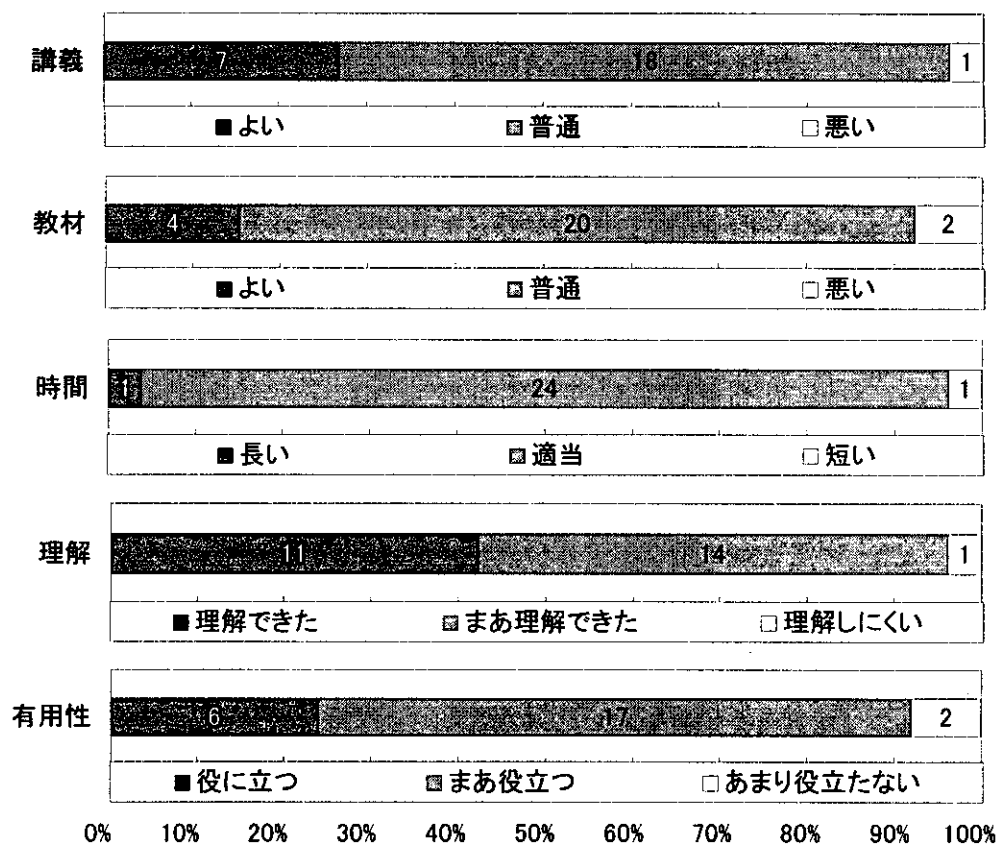


図2-11 JMEDICINEの概要

表2-10 JMEDICINEの概要

1. JMEDICINEと医中誌とを比較して検索結果にどれほど違いが出てくるのかを知りたかった。
2. 教材の字が小さい。スライドの印字がブルーだったので見つらかった。黒の方が良いと思う。
3. パワーポイントの文字の色が薄くて見つらかったです。
4. パワーポイントの文字が小さすぎて分かりにくかった。
5. PT分離の方針について触れられたのはよかったですと思います。多少期待します。
6. 良く使用しているので新たな情報はなかった。
7. 初心者には講義中にデモがあった方がよい。
8. 説明が淡々としていてポイントがわかりづらかった。JOISIについては利用したことがなかったの
で併設の大学と共に有効な利用について話し合いをしたいと考える。
9. 参加者はほとんど未使用ということでしたので全体としては問題は無いと思いますが、単なる
紹介に終わったので、既に利用している者には不向きでした。
10. EBMに関してPublication Typeによる検索も検討している点が興味深かった。
11. 医中誌のデータソースと同じなのか違うのか、評価・分析が違うのか、よく分からなかった。

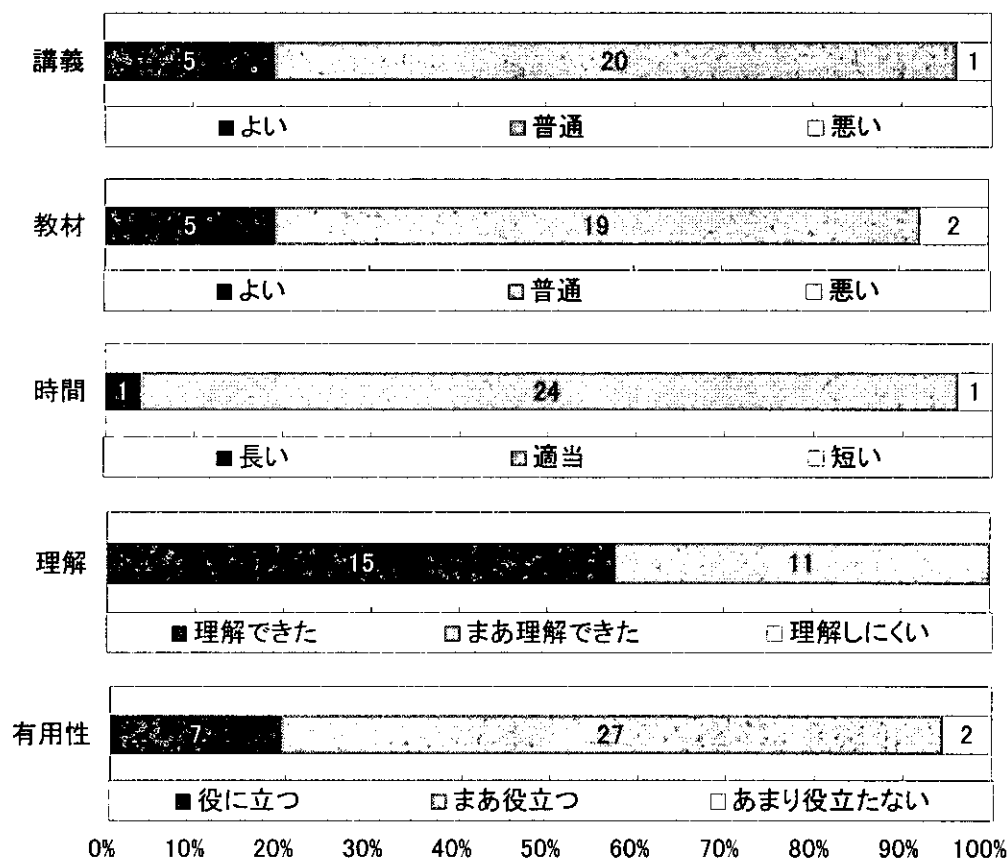


図2-12 医中誌基本DBの概要

表2-11 医中誌基本DBの概要

1. 医中誌DBについては以前より知っているので特記することはありません。
2. スライドと配布資料が同じで字が細かいので、会場を明るくして配布資料を見ながらメモが取れるようにした方がよかったです。
3. ほとんど知っていることだったので復習のつもりで聞きました。
4. これだけ問題の多いシステムであるにもかかわらず、問題意義、サービス精神が全く感じられない。実用的に役立つフォロー情報がほしかった。
5. Web版はまだトライアルの段階で、充分役立っているとはいえない。理解は出来たがまだ充分使えていないので役立つか否かは不明。
6. 初心者には講義中にデモがあった方がよい。
7. スライドが出てこなかったので、教材は「悪い」につけさせていただきました。一回目の検索の表示数を多くした方がよいということは知らなかったもので、これから検索する際に役立ちそうです。
8. 参加者はほとんど未使用ということでしたので全体としては問題ないと思いますが、単なる紹介終わったので既に利用している者には不向きでした。
9. EBMへの取り組みについて、今後の展望に関する事項について触れられているとよかったです。
10. フリーワードからの網羅性が実際には成されていないことがよく分かった。思いつくまま入れないといけないのだということが理解できてよかったです。

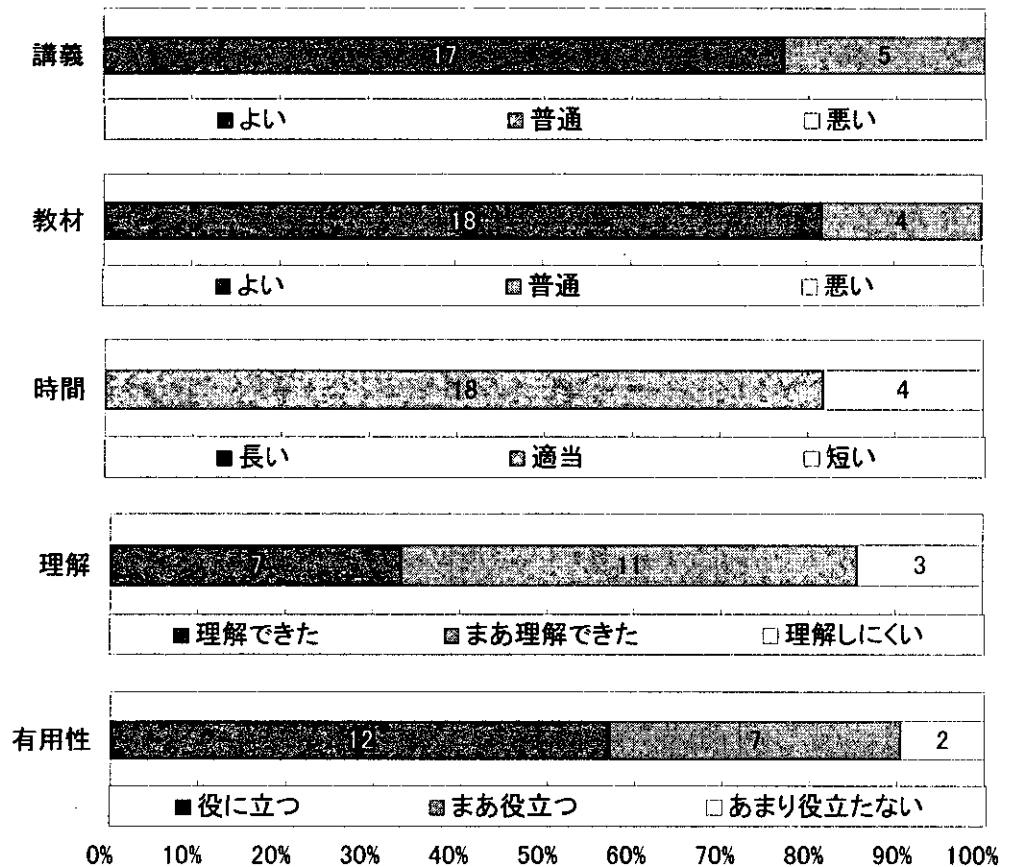


図2-13 ランダム化比較試験論文の探し方

表2-12 ランダム化比較試験論文の探し方

1. 今回のワークショップの2日間の理解度が試されたテストであった。講義内容は大変よかったが、こちらの頭が追いつかず、よく理解できたとはいえない。
2. EBMの奥深さが分かった。
3. もっと時間を取って、じっくり解説していただけるとよかったです。
4. たくさんの例をあげていただき大変よかったです。
5. 疑問点
6. 演習と回答解説にもう少し時間がほしい。
7. 1日目の講義を受けていなかったため、RCT論文の重要性についての認識が薄かった様に思う。演習でも探し方がきちんと頭に入っていなかったのも、よく分からないまま終わってしまった。身につけていないので、実践で活かすのは難しいと思う。
8. 論文の読み方が少し変わった。
9. 講義だけでは完全に理解できない部分が演習により理解しやすくなった。
10. RCT,CCTに該当する文献を把握するには時間が足りなかったが、今後も引き続き学習していきたい。
11. 演習は実践的で楽しめた。
12. 学習の例題6のような紹介記事もリストアップするとは驚きだった。
13. 「しにくい」じゃなく「理解できない。理解することが出来ない」なんですけど・・・
例題でなんとなく『つかめた』気になっていたのが「麻醉」をテキストにした途端、実際では全然違う！と思いました。まだ日常業務では仲々EBM関連のことは、少ないんですが大いに参考になります。
14. かなりの緊張と少しの興奮がありました。RCT、CCTを雑誌を見るたびに考えるようになるでしょう。「CCT」がRCTとその他のどちらでもない位置付けでしたが、それでは理解出来ていないのでしょうか。
15. 文献のタイプ(RCT,CCT,その他)が理解できたが、実際にハンドサーチを行うには自分自身ではまだ十分に習得できていない。

(3) 全体への評価

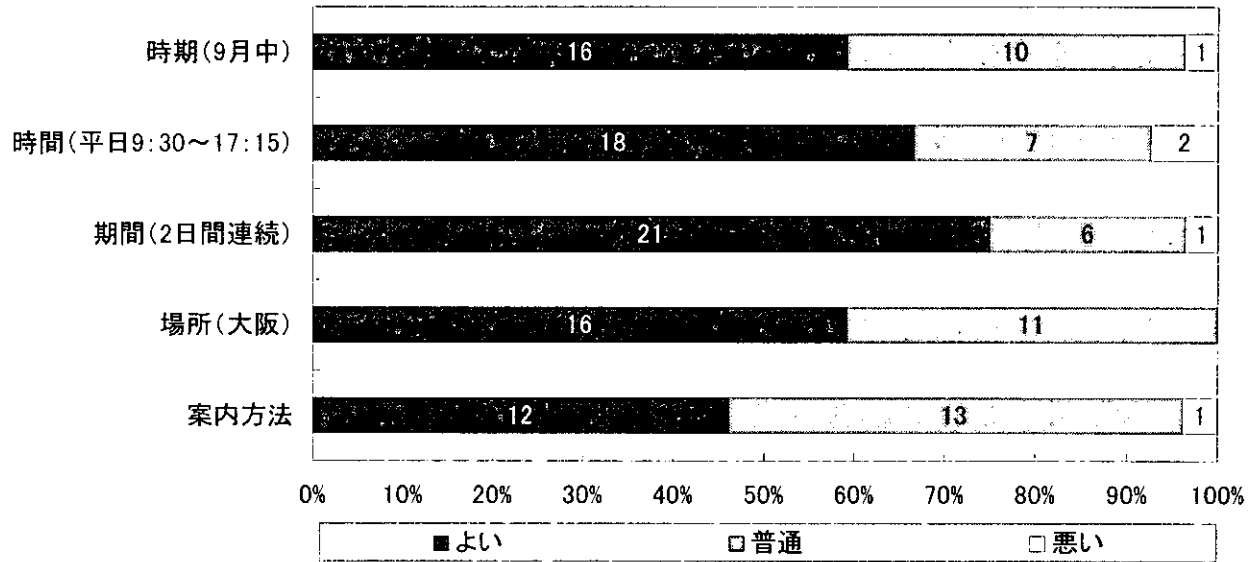


図2-14 ワークショップ開催形式の評価

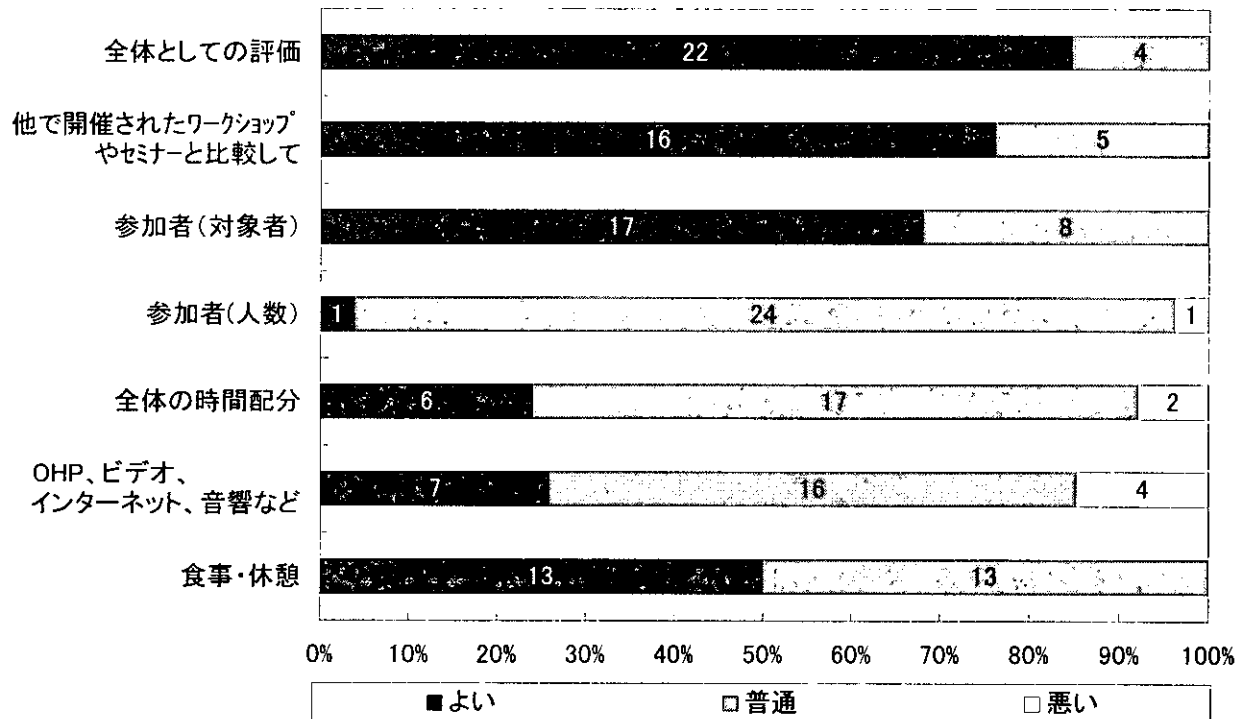


図2-15 プログラム全体の評価